Versailles
Philharmonic Quintet
10th Anniversary

Elbereth de Lioncourt

Elberesh de Lioncourt

Elberesh de Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth de Lioncourt

Elbereth de Lioncourt

Elbereth de Lioncourt

Versailles Philharmonic Quintet 10th Anniversary Special Interview

YUKI曰く"Versaillesには映画のようなことが起こるバンド"。
喜び、哀しみ、そして何よりも叶えるべき夢で
Versaillesという生き物は出来ている。
その映画のような10年を5人に振り返ってもらった。

Interview:ぼっくん

――Versailles結成10周年おめでとうございます。まずは結成当初のことから伺いたいのですが。

HIZAKI:僕がよく覚えているのは"ブドウ"ですね。

――ブドウですか??

HIZAKI:『The Revenant Choir』のMVシューティングのときにKAMIJOさんがスタッフに"ブドウを買ってきて"とリクエストしていて、"なんでいきなりブドウを食べたくなるのかなって"って思っていたんですが、なんとKAMIJOさんはその届いたブドウに向かって歌っていたとう(笑)。さすがだなって……。

――TERUさんは結成から少し遅れての加入でしたが。

TERU:加入することは決定していたんですが、前に在籍していたバンドの解散ライヴが終わってなかったので、そのライヴが終わったタイミングで正式にVersaillesに加入しました。

――YUKIさんは?

YUKI:以前組んでいたバンドを辞めてから、2年半ぐらいバンド活動を離れていて、Versaillesに加入したんです。前のバンドは知名度があったバンドではなかったので、Versaillesのメンバーに初めて会ったときは、"あっ、本物のKAMIJOさんだ!"って思って緊張しました。音楽的にも今まで僕がやってこなかったような速くてテクニカルな楽曲が多かったので、すごくプレッシャーがありました。あの頃は、日々焦っていました。

――最初の作品制作は『The Revenant Choir』のレコーディングとMVシューティングですね。

HIZAKI:『The Revenant Choir』の作曲にはすごく時間を掛けたのを思い出しますね。1ヵ月ぐらいずっと曲を作っていましたから。バンドで一旦仕上がったものを、僕が細かいパートを整理して、YUKIくんに細かい部分をリクエストして、それをKAMIJOさんに確認してもらって、また僕に戻ってくるという感じでしたね。

KAMIJO:今だったらその工程は1周で終わるんですが、当時は何回もメンバー間をループしていましたからね(苦笑)。

——大変ですね。

KAMIJO:プログレッシブかつクラシカルなパートはHIZAKIくん、ギターリフはTERUくん、歌メロは僕であったりと、メンバーみんなでパーツを持ち合って曲を完成させていたった感じです。

——そういった制作過程ですと、たしかに時間は掛かってしまいますよね。

KAMIJO:あの頃は、ギターフレーズをアレンジするにも、シンセのフレーズをアレンジするのも、メンバーみんながいる場所でアレンジしていましたからね。

——普通は、各々持ち帰ってアレンジすることが多いですよね。

KAMIJO:ただ、メンバー間でじっくり、やりとりをして、曲を完成させることができたのは、僕らにとっては貴重な時間でしたね。これから始動するVersaillesの楽曲をとことん突き詰めることができたのは、とても大切な時間でした。

——まだ、始動したてのバンドだと、お互い遠慮みたいなものはなかったのですか?

HIZAKI:それは無かったですね。最初からお互い思ったことはストレートに言ってました。

YUKI:でもTERUくんは人見知り屋さんでしたよ。

TERU:そうだったね(笑)。

YUKI:2007年の春にVersaillesの活動をスタートしたんですが、TERUくんと仲良くなったのはその年の夏だったような……。

TERU:お互い全然喋ってなかったね。もともと人見知りなうえに、YUKIくんがとっつきにくくて(笑)。

YUKI:いや、いや緊張してたんだって(笑)。

——仲良くなったキッカケは?

YUKI:O-EASTでイベントをやったときにLa'cryma ChristiのSHUSEさんにゲストに来ていただいて、SHUSEさんの曲を演奏したんです。そのときに僕とTERUくんがサポートしたんですね。

TERU:それでリハーサルのときに、大先輩のSHUSEさんと一緒にやるからには、絶対にミスできないと思ってYUKIくんと一緒に"ちゃんと出来るかな? 不安だよー"ってお互い不安がっていたんです。それで一気に仲良くなりました。

——"不安"を共有して仲良くなったと(笑)。

KAMIJO:それにしても、なんで、SHUSEさん、

TERUくん、YUKIくんがセッションするような企画を立てたんだろう……。
HIZAKI&TERU:それKAMIJOさんの企画ですから!(爆笑)。
KAMIJO:そうだった? でもそれで仲良くなったんだったら、結果よかったよね(笑)。
――そして『The Revenant Choir』リリース直後2007年6月24日に恵比寿リキッドルームでライヴがありました。
KAMIJO:あの日は、僕は薔薇をもって登場しました。当時のヴィジュアル系のシーンでは、そういった演出は時代の流れとは違っていたと思うんです。ただ、"例え笑われたとしても、Versaillesとして表現したいものを突き通すんだ"という強い気持ちで臨みました。
――思い通りのライヴが出来ましたか?
KAMIJO:正直、初期の頃は"よし、出来た。完全なライヴだ"とは思いきれていなかったんです。でも、ライヴを"よい空間にしたい"っていう気持ちはすごく強くて。その気持ちが空回りして、最初の数公演はとてつもなく、自己ダメージを受けました。
TERU:僕はリキッドルームの前日(6月23日)に目黒鹿鳴館で演ったライヴのほうが印象に残っています。鹿鳴館では、男性限定ライヴでしたし、記者会見もあったりで、それまで経験のしたことのないことだらけで、訳が分らないままステージに立っていたというのを覚えています。
KAMIJO:今振り返ると、あの日はすごいライヴだったですね。たしかVersaillesとして初パフォーマンスだったにもかかわらず、メンバーのソロコーナーから始まるという(笑)。
HIZAKI:YUKIくんのドラム・ソロからライヴが始まるんです。それまでドラム・ソロってやったことなかったんじゃない?
YUKI:初めての経験でしたね。しかもライヴの2日前に首を痛めて、当日はコルセットをしてライヴに臨んだんです。
TERU:しかもYou(Jasmine You)くんのソロコーナーでは、ベースを弾かずにマジックをやるという。
――Youさんはマジックが得意だったんですか?
HIZAKI:ドン・キホーテで売ってそうなマジックだったような……(笑)。
TERU:でも、Youくんがやるので、独特な世界観はありましたよ。
――初ライヴの演出がそういったイレギュラーなカタチになったのはなぜですか?
KAMIJO:Versaillesとして初めて人前に出るので、自己紹介を兼ねて各メンバーのソロコーナーからスタートしようと思ったんですね。当日はテレビの取材(フジテレビ系列:めざましTV)が入っていたりと、はちゃめちゃでしたね(笑)。
MASASHI:たまたま早起きして、ぼくそのTV観ていたんです。"KAMIJOさんが新しいバンドやるんだ"って。
一同:(笑)。
MASASHI:まさか後に、そのバンドに自分が加入することになるとは。
――そして2007年10月31日に1stミニ・アルバム『Lyrical Sympathy』を日本と欧州で同時リリース。
KAMIJO:こんなに早いタイミングでアルバムをリリースするつもりはなかったんですが、音源リリースを望む声が大きかったので、リリースを決めました。『Love from a Dead Orchestra』ではメンバーのアレンジ力の高さに脱帽しました。
TERU:集中して KAMIJOさんの自宅スタジオで、レコーディングしていたので、合宿っぽいノリがあって……。あの当時よく、レコーディングの合間にみんなでソバを食べに行きました。
KAMIJO:あー、いったねぇ。
YUKI:よく食べたのは"お重弁当"ってやつ(笑)。
TERU:とにかくメンバーと一緒にいる時間が長かったので、音楽的な部分以外でもメンバーとの結束が固まった時期でしたね。
――そして2007年10月から初のツアー『日本耽美革命』。このツアーで印象深かったことというと?
TERU:フェリーに乗った!(笑)。
HIZAKI:たしか仙台から苫小牧の区間だったかよね。
TERU:フェリーに乗ったのは中学生以来だったので、うれしかったんです。枕をドミノにして、ずっと遊んでました。
――HIZAKIさんはこのツアーで覚えていることは?
HIZAKI:都心を離れて地方にいくと、ライヴに参加するというよりも、眺めているお客さんもいたので、"この野郎ー、次は覚えていろよ!"っていう闘志に燃えていたのを思い出します。
YUKI:僕は本格的なツアーを経験していなかったので、バンドでライヴして、打ち上げして、移動してというのがすごくバンドをやっている感じがして楽しかったです。
――かなりタイトなツアースケジュールだったと思うんですが、打ち上げはよくやられていたんですか?

KAMIJO:よくどころか、毎回必ず打ち上げはやっていました。
——それは反省会という意味も含んでいるんですか?
HIZAKI:そんなこともないんじゃないですか。飲みたいだけってことで(笑)。
——そして2018年3月からは、結成1年を待たずして海外ツアー『欧州耽美革命』を決行。
YUKI:確かこのときのライヴでのレパートリーは6曲。
HIZAKI:6曲で海外ツアー(笑)。
KAMIJO:いやいや、もう少しレパートリーはあったよ。「Aristocrat's Symphony」、「SUZERAIN」、「zombie」は既にライヴで演っていたから。徐々に曲を増やしている時期でした。でも、ワンステージ90分の尺だったので全然足りなかったですね。僕のソロコーナーではLAREINEの曲も演っていましたから。
HIZAKI:初の海外ツアー。決まったときは、うれしかったですね。実際行ってみたら、なにもかも、分からな過ぎでしたけれど……。英語さえ怪しいのに、ドイツ語、フランス語といわれてもね……(苦笑)。
——なるほど。
HIZAKI:言葉の問題以外にも、日本と習慣の違いで戸惑いました。欧州内はライヴ終演後、バスで移動していたんですが、ライヴ後はすぐにシャワーを浴びたいじゃないですか。でも現地スタッフも日本のバンドのツアーをやったことがなかったから“なぜ、ライヴが終わってすぐに毎日風呂に入りたがるんだ。移動して次のライヴハウスに着けばシャワーを浴びられるから”って言うんですね。そんなことでライヴ後の移動前は、現地スタッフと毎回言い合いでした(笑)。
——ライヴはいかがでしたか?
HIZAKI:オーディエンスの声の大きさに驚きました。最初のパリ公演のときに、様々な人種の人たちがライヴに来てくれて、すごく感動しました。
TERU:機材とかの環境面では大変だったので、そこはストレスになったけれど、オーディエンスの反応がすごく良くて、それに救われましたね。
YUKI:メロイックサインを挙げるだけで、オーディエンスの歓声がすごいんですよ。だから浮かれてました。“俺スターだって”(笑)。
KAMIJO:バンドとしてすごく充実していましたね。
——そしてこの年の7月に初のフルアルバム『NOBLE』がリリースされました。
KAMIJO:まず最初に『The Revenant Choir』を収録したアルバムを作りたかったんですね。

YUKI:確か『Episode』はKAMIJOさんと二人でレコーディングしましたよね?

KAMIJO:そうだったね。

YUKI:夜中に二人っきりで。KAMIJOさんが歌って僕がRECボタンを押して。

TERU:当時はYUKIくんがエンジニア的なことをやっていたね。HIZAKIくんや僕よりもレコーディングの機材に詳しかったからね。

——そして12月23日には初のCCレモンホールでのライヴがありました。

YUKI:数日前から緊張しすぎてガチガチでした。普段はステージが始まると緊張は解けるものなんですけど、あの日はセットリストが半分進んでもまだ、緊張していましたからVersaillesのライヴ史上一番緊張したライヴでした。

TERU:僕も緊張していました。京都の人間からすると、東京の有名なライヴ会場って武道館と渋谷公会堂(CCレモンホール)くらいしか知らなかったんですね。だから、僕にとってCCレモンは聖地でしたね。ライヴでスクリーンに「History of The Other Side の歌詞を投影したのが感動的でした。

YUKI:その歌詞とスタッフエンドロールを投影中にメンバーが「Prince & Princess」の衣装に着替えて再登場。そこでメジャーデビューの発表をしました。

TERU:よく覚えているね。

YUKI:だって記念のライヴだもの。

KAMIJO:メジャーデビューの発表に限らず、大事なことをファンの方に伝えるときは、気が引き締まりますね。

HIZAKI:CCレモンのライヴ直前に手を負傷してしまって、当日は痛み止めを飲んでライヴしていたんですが、本編の最後のあたりで痛み止めの効力が切れてしまって……。本編終了後の楽屋では痛みが酷くて一人泣いていました。そして、そのままアンコールでのメジャーデビュー発表。そこでは感動の涙。あの日はいろいろな涙が混ざっていました(笑)。

——そして同年の6月24日『ASCENDED MASTER』でメジャーデビュー! ただ当時のヴィジュアル系のファンの心境として、かならずしもメジャーデビューを手放し歓迎するファンだけではなかったように記憶しています。

KAMIJO:僕のなかではヴィジュアル系のシーンの仲間たちも一緒に吸い上げていこうという気持ちもあったんです。デビュー直前に全国で"革命のアンソロジー"というイベントを行ったんですが、そこで僕らがどういった気持ちでメジャーデビューするのかをみなさんに丁寧に伝えたつもりです。

HIZAKI:ファンの人がメジャーデビューに批判的なのは、メイクが薄くなったり、衣装がシンプルになったり、ライヴが大人しくなってしまうことを心配していると思うんですけど、僕たちは、まったくその逆の方向に向かっていましたからね。インディーズの頃よりももっと綺羅びやかな衣装で、激しいステージを魅せることができるように努力していましたから。その辺はファンに方たちにも十分伝わっていたと思います。

——メジャーデビューの矢先、2009年8月9日。Youさんが逝去されました。

KAMIJO:まったく現実を受け入れることができませんでした。当時の記憶がまったくないんです。

——大切な仲間を失いましたが、Versaillesはバンド活動を続けることを選びました。

KAMIJO:家族同然のメンバーを失ったことで、何をどうしていいのかまったく考えられなかったんです。そんなときYUKIくんの"バンドを続けよう"という声に勇気付けられてVersaillesを続けることを決めましたが、それでもなかなか気持ちの整理が付かなくて……。ただ、作曲をしたり、詩を書くことで自分の気持ちを確認していったんです。楽曲に自分の気持ちを乗せることによって少しずつですが、活動再開に向けて気持ちが向いていったんです。

——ツアーの日程を残して、急遽サポートとしてMASASHIさんが参加されます。

MASASHI:じつはYouくんが亡くなる前に、連絡をもらっていたんです。そのことがずっと僕の頭のなかに残っていたんです。ですからYouくんの意思を継ぐといった意味でも、サポートのお話を受けました。Youくんの位置でベースを弾くことに関していろいろ考えることはありましたが、Versaillesに参加することに迷いはなかったです。

KAMIJO:MASASHIくんと初めて音を出したときから安心感はありました。

YUKI:MASASHIくんは技術面では高いものを持っているので、ライヴではすんなりプレイできたんですが、Youくんの後の6人目のメンバーとして受け入れるという心境になるまで、少し時間が掛かりました。

KAMIJO: MASASHIくんに正式加入してもらうキッカケとなったのはワールドツアーでの出来事なんです。南米でツアーの合間にインストアイベントをやっていたんですが、突然MASASHIコールが起こったんです。

みんなMASASHIくんのことを必要としているんだと強く感じた瞬間です。

HIZAKI:Youくんがいなくなって、人前に出るのが怖くて、ライヴはもう出来ないんじゃないかと思っていたんです。でも、MASASHIくんが加入することになって、直感的に上手くいくように感じたんです。

TERU:MASASHIくんとは初めからフラットな気持ちで付き合うことができました。YUKIくんとは違って(笑)。

MASASHI:僕はTERUくんだけ、心を開いてくれてないと感じてたんだけど……。

TERU:えっ(笑)。

MASASHI:でも海外ツアーにいったぐらいから波長が合ってきて。

YUKI:TERUくんと仲良くなる秘訣は“厳しい環境を共にする”ということですね(笑)。

MASASHI:サポートしていて、Youくんのことでメンバーが落ち込んでいるのを、客観的に見ていたんです。サポートメンバーではあったんですが、このままでは良くないだろうという気持ちはあって……。ですから演奏面だけではなく、何かメンバーに対して僕が出来ることはないかと考えてはいました。

——そして2012年の活動休止。バンドとしてのバランスを失っていた時期でもあったんですね。

KAMIJO:当時の心境は『ROSE』の歌詞に込めています。美しいものに触れよう、手に入れようとすると、その棘で傷付いてします。良かれと思い人に掛けた言葉が、“諸刃の剣”となって誤解を生んでしまう……。活動休止をメンバーに伝える直前に書いたんです。

HIZAKI:メンバー間だけの問題ではなく、いろいろな部分で流れが悪くなっていて。あのまま無理に続けていても良い結果にはなっていなかったと思うんです。ファンのみんなには哀しい思いをさせたけど、今振り返るとあのとき一旦止まったことは、間違いでは無かったと思います。

YUKI:続けていくという選択肢はなかったと思います。

TERU:みんな自分のなかでの“正義”があったんです。その“正義”は個々に間違いではなかったと思うんですが、5つの正義が違った方向を向いていたと……。だから、その“正義”をもってメンバー間でぶつかり合うのは不毛だと思ったし……。ですから、続けたいという気持ちはあったんですが、少し時間が必要だと思ったんですね。

——そして4年弱の活休を経て2016年に復活。再始動のキッカケは?

HIZAKI:MASASHIくんとレコードメーカーの人と飲んでいて、Versaillesの話になって……。スタッフもメンバーも再始動を望んでいると言われて。それで、その場にKAMIJOさんを呼んだんです。当時はメンバーだけで会って話をするのは難しかったので、間に信頼できるスタッフいたのが良かったですね。

KAMIJO:僕から再始動を言い出す気はなかったんです。ですが、HIZAKIくんから話をもらったことはすごくうれしかったんです。当時はソロ活動をしていましたが、Versaillesは僕の音楽キャリアのなかでも自慢ですからね。

——みんなが“また始めたいと”と思えるようなタイミングで、声を掛け合ったのには運命を感じます。

KAMIJO:復活したら、こんなことが出来るんじゃんないかと、面白い未来を想像できたんです。

——その“面白い未来”には武道館でのライヴも含まれているんですよね。

KAMIJO:そうです。“復活=武道館公演”だったので。

——再始動後、変化したことはどんなことですか?

HIZAKI:メンバーそれぞれの活動もあるので、やりたいことのすべてをVersaillesに反映させる必要もないので、よりVersaillesらしいもの、Versaillesでやりたいものを吟味しながら制作できるようになりました。また、個々の活動で得たものをVersaillesにフィードバックできるようになったので幅位は広がったと思います。

——そして2017年2月14日の武道館公演。

TERU:まだ、客観的に語れないぐらい大きな出来事でした。でも、あのステージに立って、自分たちがやってきたことが間違いじゃなかったと実感できました。

HIZAKI:セットリストには昔の曲も多かったですが、インディーズの頃から武道館を見据えて曲を作っていたので、Versaillesの曲はライヴハウスで演じる楽曲ではなかったかも知れません。そういう意味では、昔の曲も武道館のスケールには合っていたと思います。

YUKI:最初のCCレモンホールのライヴでは演奏が始まっても緊張感がほぐれなかったんですが、武道館は1mmも緊張せずに、最初から最後まですごく気持ちよくプレイ出来たんです。ずっと憧れていた場所だったし、Youさんと約束した場所でもあり、いろいろな思いがあの場所にはあったんです。そのステージに立っているので、あとは“最高のVersaillesを届けるだけ”だったんです。それを実現できているという感覚があったのでとにかく幸せでした。と、同時に、一つの目標に到達したんですが、まだまだ俺たちは上にいけるという確信も持

ちました。
MASASHI:プレイしている最中は最高に気持ち良かったんですが、武道館のライヴに至るまでの過程が大切だったと思いました。ヨーロッパツアーや、アルバム『Lineage ～薔薇の末裔～』の制作があったりと、その一つ一つの過程がパワーになってあの武道館のステージで出せたと思います。
HIZAKI:開演してSEが流れているときにメンバーの顔を見ましたが、誰一人緊張してなかったんですね。緊張していないということは不安に思っていないってことじゃないですか。初めてのCCレモンでは、みんな緊張していたんですが、それが武道館ではなかったというは、みんな頼もしくなったなと。
――この武道館ライヴの模様が6月27日にDVD『Chateau de Versailles at Nippon Budokan』となってリリースされます。見どころを教えてください。
HIZAKI:TERUの顔!
TERU:こらこら(笑)。
HIZAKI:アンコールでのTERUのイキきった顔は是非、チェックしてください。
――ご自身でHIZAKIさんがどのシーンのことを言っているのか分かりますか?
TERU:はい。本編まではファンのためにという意識があったんですが、アンコールの最後の最後では、自分が武道館でライヴをしているということをフルで体感したいと思って"もう、いくとこまでいってしまえ"って。
一同:(笑)。
KAMIJO:武道館ではライヴをしているときから、一つの作品を創っているという感覚があって、その作品を構築しているということがすごく楽しかったんです。感覚的な話なんですが、ステージからすべてがスローモーションで見えるような感覚……。自分の中で感性が爆発している感覚がずっと続いていたんです。
――そして、6月23日には豊洲PITで9月からはVersailles 10th Anniversary Ceremony「CHATEAU DE VERSAILLESがスタート。そして9月からは再びワールドツアーがスタートします。武道館では『Lineage ～薔薇の末裔～』から数曲披露していただきましたが、これからのライヴでは、はさらに『Lineage ～薔薇の末裔～』からの曲がセットリストにエントリーされるんですよね。
KAMIJO:そうですね。ただ、つねに新しい楽曲は生み出していこうと思っているので、まだリリースしていない曲もみなさんにお届けしたいと思っています。
――最後にVersailles結成10周年のファンのみなさんにメッセージをお願いします。
MASASHI: Versaillesには世界中に熱いファンがいてくれることが本当にうれしいんです。待ってくれているファンがいるのに、まだいったことのない国もあるので、ぜひそういったファンの方にもライヴ体験してもらいたいですね。また、国内もツアーを通じてみんなに10周年のお礼を言いたいなと思っています。
TERU:ファンのみなさんには感謝しかないです。Versaillesは"夢"を大事にしてきたバンドだと思うんです。Versaillesが叶えた夢を、ライヴや音源を通してみなさんに感じてもらう。そして、これからもVersaillesが夢を叶える瞬間をたくさん見せていきたいなと思います。それがファンの応援に対しての感謝の気持ちになると思いますから。
YUKI:ずっとVersaillesを支えてくれてありがとうございます。この10年、楽しいことも辛いことも本当にいろいろなことがありました。まるで映画のような出来事が次々起こるバンドですが、これからもドラマティックなVersaillesの歴史を見せていきますので、今後も応援よろしくお願いいたします。
HIZAKI:初めてのVersaillesのライヴは男性限定。その当時は、ヴィジュアル系のライヴに男性が来ることがまだ、珍しかったけれど、今はライヴにたくさんの男子に来てもらっています。またVersaillesはヴィジュアル系とヘビーメタルの架け橋にもなれたと思うし、日本だけではなく海外にもたくさん応援してくれる人がいます。これまでやって来たように、どんな人でも楽しめるような夢の空間を作っていきたいですね。
KAMIJO:日本武道館は僕らにとって大きな一つの夢でした。一つの夢を叶えて、またこの先、実現すべき夢が待っています。近々、また新しい夢をみなさんにお知らせできると思います。楽しみに待っていてください。ありがとうございます。

Elbereth de Lioncourt

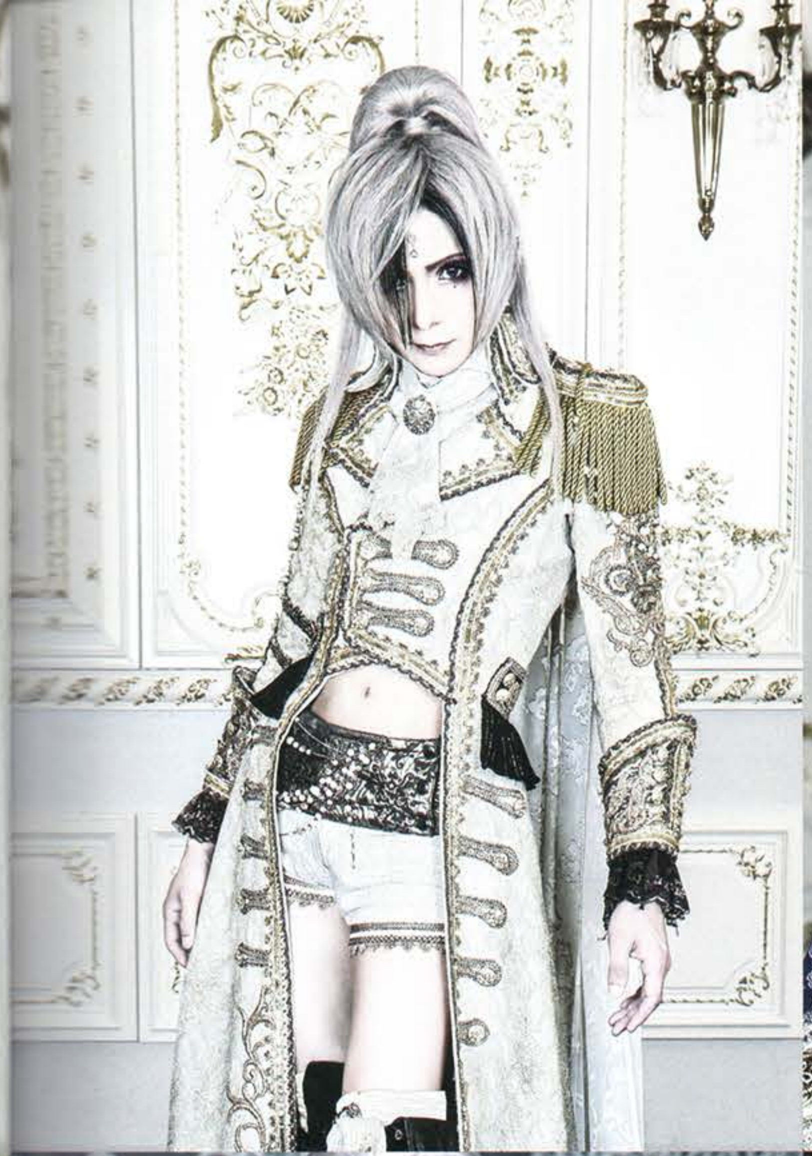
Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt



Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth de Lioncourt

Elbereth de Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Elbereth
de
Lioncourt

Eternal Member

Jasmine You

VERSAILLES CHRONOLOGY

2007年

3月 Versailles結成。

3月29日 KAMIJOのブログ上でメンバー、翌日にはバンド名を発表。

6月23日目黒鹿鳴館にて
男子限定のショウケース・ライブ決行。

ライブ会場限定DVDシングル
「The Revenant Choir」リリース。

6月24日 恵比寿LIQUIDROOMにて
正式初ライブを行う。

7月20日 Guitar.TERU 正式加入。

8月30日 Shibuya O-Eastでの主催イベント「The Red Carpet Day」
にてドイツのCLJ Recordsとライセンス契約を交わす。

10月31日ミニアルバム「Lyrical Sympathy」日本/ヨーロッパで同時発売。

11月2日 初の全国ツアー「日本耽美革命」6公演を行う。

2008年

3月19日Versailles主催イベント
「Tokyo Metropolis」を渋谷AXにて開催。

3月19日「A Noble was Born In Chaos」発売。

3月28日初のヨーロッパ・ツアー
「欧州耽美革命」5カ国6公演を行う。

5月3日「hide memorial summit」出演。

5月30日～6月1日アメリカ「A-KON」
のメイン・ゲストとして出演。

7月16日 1stフルアルバム「NOBLE」発売。

8月17日「Tokyo Metropolis II」
のステージにて、バンド名変更を発表。

10月の10日～11日ワシントンDCアニメ・コンヴェンション
「anime USA」にメイン・ゲストとして出演。

11月8日 初のワンマン・ツアー
「Chateau de Versailles」を行う。

12月10日シングル「PRINCE & PRINCESS」発売。

12月23日 渋谷C.C.Lemon Hallライブにて
メジャーデビューを発表。

2009年

3月26日よりインディーズラストツアー
「The Fragment Collectors」を行う。

5月15日 主催イベント
「Tokyo Metropolis -Versailles Fes -」を
新木場COASTで開催。

5月20日 ライブDVD「Chateau de Versailles」と
「HISTORY OF THE OTHER SIDE」を発売。

6月17日～21日 インディーズラストライブを
目黒鹿鳴館で5日間行う。

6月24日ワーナーミュージック・ジャパンより
メジャーデビュー。

6月24日 メジャーデビューシングル
「ASCENDEAD MASTER」を発売。(オリコン初登場8位を獲得)

**8月9日 Bass. Jasmine You 逝去。
バンド活動を一時休止する。**

10月25日「V-ROCK FESTIVAL09」にて活動再開、
"Sステージ"のトリを飾る。

2010年

1月4日 渋谷O-EASTにて
「Jasmine You -Memorial Ceremony-」開催。

1月20日メジャー1stアルバム「JUBILEE」発売。

World Tour 2010 "Method of Inheritance"を行う。
2月28日よりWorld Tour 2010 "Method of Inheritance" Japan Tour 14公演
6月4日よりWorld Tour 2010 "Method of Inheritance" Latin America Tour 5公演
6月26日よりWorld Tour 2010 "Method of Inheritance" Europa Tour 11公演
7月19日よりWorld Tour 2010 "Method of Inheritance" Japan Tour 7公演

9月1日 ライブCD「Lyrical Sympathy-LIVE」と
「NOBLE-LIVE-」を同時発売。

9月4日 ワールドツアーのグランドファイナル
渋谷C.C.Lemen Hallで、6人目のメンバーとして
Bass.MASASHI 加入。

10月27日 シングル「Destiny-The Lovers-」を発売。

11月10日 TOKYO VISUAL FESTIVAL 2010に出演。

Elbereth

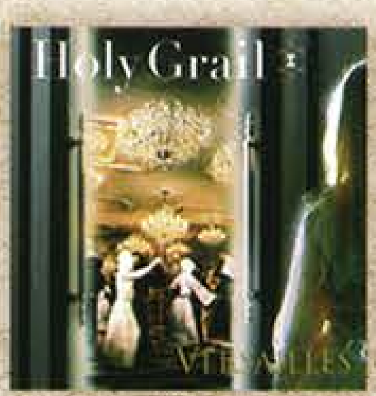
2011年

1月4日 赤坂BLITZにて新生Versailles初ワンマン
「革命～美しき運命～」を行う。

1月より主演ミニドラマ「おねがいかなえてヴェルサイユ」全10話が
毎日放送、テレビ神奈川にて放送開始。

3月16日 シングル「Philia」発売。

5月4日より春のショートサーキット
「Versailles Spring Tour 2011 -Philia-」振替公演を行う。



6月15日メジャー2ndアルバム
「Holy Grail」を発売。

7月6日 DVD「おねがいかなえてヴェルサイユ」発売。

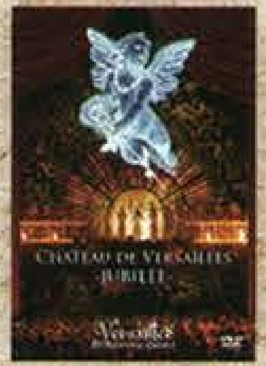
7月17日 渋谷C.C.Lemon Hallより
World Tour 2011 "Holy Grail"スタート。

9月2日より「Versailles World Tour 2011-Holy Grail-Asia」2公演を行う。

9月30より「Versailles World Tour 2011-Holy Grail-Europe」9公演を行う。

11月6日より「Versailles World Tour 2011-Holy Grail-South America」9公演を行う。

10月23日「V-ROCK FESTIVAL '11」出演。



12月21日 ライブDVD「Chateau de Versailles -JUBILEE-」発売。

2012年

2月12日 渋谷公会堂にてWorld Tour 2012
-Holy Grail- Grand Final～Chateau de Versailles～を行う。

4月25日 Digital Single
「Rhapsody of the Darkness / Illusion」配信開始。

5月3日より「Versailles Spring Tour 2012
～Rhapsody of the Darkness～」開始。

5月17日 ロシアコンベンションライブ "the rASIA.com 2012 Festival" 出演。

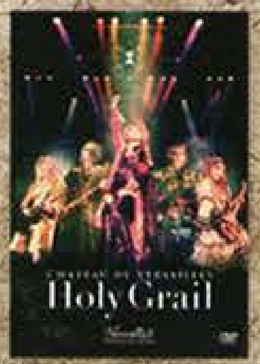
6月23&22日 Versailles結成五周年記念イベント
「Versailles Presents Tokyo Metropolis」を行う。

7月4日 シングル「ROSE」発売。

7月19日 活動休止発表。

9月26日 ジャー3rdアルバム
「Versailles」発売。

10月31日ライブDVD
「Chateau de Versailles -Holy Grail-」発売。



11月1日よりVersailles TOUR 2012
「Chateau de Versaille」開始。

12月20日 NHKホールにて活動休止。

2013年

1月30日 Best Album 2009-2012
「Anthologie」発売。

3月20日 ライブDVD
「Chateau de Versailles -FINAL-」発売。

3月27日 ライブDVD「LIVE BEST」発売。

2015年

12月20日 Versailles復活発表。

12月28日 KAMIJO「World Tour 2015
0th ANNIVERSARY BEST- Grand Finale」Zepp DiverCityにて
Versailles 復活の儀式を行う。

2016年

6月25日 「Versailles 9th Anniversary
Premium Show Case」を行う。

8月7日 舞浜アンフィシアターにて
完全復活ライブ
「Chateau de Versailles」を行う。

9月2日～23日 渋谷マルイにて
Versailles×渋谷マルイのコラボイベント
「ヴェルサイユ宮殿～玉座の間～」を開催。

9月14日 リテイク・ベスト・アルバム
「The Greatest Hits 2007-2016」発売。

2017年

1月26日よりVersailles EUROPE TOUR 2017
"Renaissance" 7公演を行う。

2月14日 日本武道館
「Chateau de Versailles」を行う。

2月14日 アルバム「Lineage」リリース。
日本武道館公演限定無料配布＆通常盤のみ会場で数量限定販売。

Elbereth de

Versailles
Philharmonic Quintet
10th Anniversary

Vocal : KAMIJO

Guitar : HIZAKI

Guitar : TERU

Bass : MASASHI

Drums : YUKI

Eternal Member : Jasmine You

Elbereth de Lioncourt
lady-oscar-e-monsite.com